

気候変動・生物多様性・循環経済への三位一体での推進

当社グループは、自然環境・生態系の恵みや燃料・金属等の資源を利用して事業活動を行い、また、GHGの排出や土地・水・資源の利用等を通じて、気候変動や自然環境に影響を与えています。こうした自然や資源への依存と事業活動による影響を踏まえ、ゼロカーボン（ZC）、ネイチャーポジティブ（NP）、サーキュラーエコノミー（CE）を、持続可能な社会の実現と事業の持続性向上に向けた重要な取組みと位置づけています。

気候変動は生物多様性損失の要因の一つである一方、健全な自然資本の維持・回復は、気候変動の緩和・適応にも寄与します。また、CEの推進により、資源の採掘・加工・製造・廃棄に伴うGHG排出や自然への負荷を低減することは、ZC・NP双方の実現に貢献します。このよう

にZC・NP・CEは相互に密接に関連しています。

当社グループは、水力発電をはじめ、自然と共存しながら長期にわたり事業を営んできた経験や地域との関係に加え、発電、送配電、情報通信、不動産など、幅広い事業基盤と設備・ネットワークを有しています。こうした当社グループの強みや事業特性を活かし、ZC・NP・CEを一体的に捉え、それぞれの取組みの相乗効果を高めるとともに、相互のトレードオフにも配慮しつつ、事業活動や意思決定への反映を進めることで、事業の持続性を高め、更なる企業価値の向上と持続可能な社会の実現を目指します。

ZC (ゼロカーボン)

方針等

- 気候変動問題を経営上の重要課題として認識し、ゼロカーボン社会の実現に向け事業活動に伴うCO₂排出を2050年までに全体としてゼロとする「ゼロカーボンビジョン2050」を定め、その実現に向けた道筋を目標とともに「ゼロカーボンロードマップ」でお示ししています。



取組み例

- ゼロカーボンソリューションの提供 (P33)
- 原子力7基の安全を大前提とした最大限活用、新增設・リプレイスに向けた取組み (P34)
- 再エネの積極的開発、水力発電電力量の維持・向上、揚水の最大限活用 (P35)
- 将来のゼロカーボン化を前提としたLNG火力の電源開発の推進 (P36)

▶ TCFDに基づく情報開示 (P.39~43)

NP (ネイチャーポジティブ)

方針等

- 関西電力グループは、生物多様性に依存し、また影響を与えていることを認識し、生物多様性の向上に積極的に取り組むことで事業の持続性確保と機会を創出します。
- 生物多様性の向上に積極的に取り組むことで、事業持続性を追求し、ステークホルダーのみならず信頼される企業になります。

取組み例 (P37)

- 流域全体でつなぐ、黒部の自然共生プロジェクト 等

▶ TNFDに基づく情報開示 (P.39、P.44~46)



三位一体で持続可能な社会と企業価値の向上
関西電力グループ power with heart

トレードオフの最小化
脱炭素と自然・生物多様性の両立
再エネ・送配電設備等の導入に伴う生態系影響の回避・低減

脱炭素を支える資源循環
使用済太陽光パネルのリユース・リサイクル等

資源循環による自然資本への負荷低減
設備資材の循環利用による新規資源採掘・廃棄の抑制

CE (サーキュラーエコノミー)

方針等

- 関西電力グループは、天然資源が限りあるものであることを認識し、事業活動において、ライフサイクル全体を通じて天然資源の消費および廃棄物の発生を抑制するとともに、3R (Reduce, Reuse, Recycle) による資源の循環利用を推進します。また、資源の有効活用や新たな価値の創出を通して、社会全体の循環経済の実現に貢献します。

取組み例 (P38)

- 産廃リサイクル率: 99.5% (当社および関西電力送配電(株)) 95% (当社グループ全体)
- プラスチック削減: 可能な限り廃プラスチックの排出抑制・再資源化に努める
- 原子燃料サイクルの推進
- クリアランス金属の用途開発 等